

調査企画書

[2025年版 感光体マーケット総覧]

『戦略転換期を迎えた
感光体市場の総合分析』

=感光体、素管、塗布材料の市場動向を詳細分析=

<標準版>

(2025年2月26日刊行予定)

<特別版>長期予測レポート付き
(2025年2月28日刊行予定)

2025年1月



日・中・米・欧の市場調査
株式会社 データ・サプライ

〈調査概要〉

I. 調査テーマ

[2025年版 感光体マーケット総覧]

『戦略転換期を迎えた感光体市場の総合分析』

＝感光体、素管、塗布材料の市場動向を詳細分析＝

II. 調査主旨

複合機やレーザープリンタは日本メーカーが世界シェアの大部分を占める日本の基幹産業の一つであるが、近年はオフィスのペーパーレス化の進展により市場の縮小傾向が顕著となっている。さらに2020年のコロナ禍はこの流れを加速させている。

このような市場縮小の影響を受け、電子写真プロセスにおけるキーパーツの一つである感光体の出荷本数はここ数年、大幅な減少傾向となっている。今後の将来見通しも厳しい。オフィスにおけるプリントボリュームの減少やMFP用感光体の長寿命化などにより、感光体の交換需要の減少スピードは主要各社の想定を上回っており、全世界的にその減少の流れはさらに加速していく可能性が高くなってきた。

感光体の需要減少が進むなかで、内製メーカーにおいては、コストダウン目的で外部から感光体を購入する、もしくは生産量維持のため外販拡大に踏み切るなどの戦略転換がいつなされてもおかしくない時代に突入したと言えるだろう。

複合機・プリンタ業界全体では、複合機メーカー同士のマシン開発・生産の統合や調達部門の統合など業界再編の動きが活発化しており、これらの動きは感光体市場にも様々な影響を与えることになるだろう。また、感光体のサードパーティ市場においては、本数シェアで大半を握る中国勢は強気の姿勢を崩していないが、純正品市場がシュリンクしていく以上は、サードパーティ需要も頭打ちになっていくことは必然であり、そう遠くないうちに中国感光体メーカーの淘汰も始まると予想される。

「2025年版感光体マーケット総覧」は、シリーズ第35回目の刊行となります。今回はこれまでの調査フォーマットを踏襲する〈標準版〉(2025年2月26日刊行予定)に加え、弊社が独自に算出した複合機やレーザープリンタの累積設置台数(MIF)をベースに、2040年に向けた感光体業界の長期トレンドレポートを加えた〈特別版〉(2025年2月28日刊行予定)の刊行も予定しています。本レポートをご利用いただく関係各位におかれましては、事業再発展の一助となることを望みます。

Ⅲ. 調査対象品目及び調査対象先

1. 調査対象品目

- 1) 感光体
 - OPC感光体
 - S e系感光体
 - a-S i感光体

2) 感光体アルミ素管

3) 塗布材料

2. 調査対象先

- 1) 感光体メーカー (国内 9 社、海外 21 社)
- 2) 素管 (押出・引抜・切削) メーカー (国内 10 社、海外 9 社)
- 3) 塗布材料メーカー (CTL/CGL/UCL/OCL) (国内 15 社、海外 4 社)
- 4) ハードメーカー (MFP/LBP/PP) (国内 10 社、海外 10 社以上)

Ⅳ. 調査範囲及び調査方法

1. 対象期間

- 1) <標準版> 2022年～2024年実績、2025年見込～2028年予測
- 2) <特別版> 2001年～2024年実績、2025年見込～2040年予測

2. 調査対象範囲 <標準版/特別版>

日本、北米、欧州、韓国、中国、その他地域

3. 調査方法

- 1) 取材対象メーカーへの面談調査 (オンライン面談含む)
- 2) 公開されている文献、資料、統計等の分析及び調査
- 3) 弊社蓄積データの活用

Ⅴ. 調査形態、調査期間、他

1. 調査形態

本調査はマルチクライアント方式による調査である。

2. 調査期間

2025年1月～2月

3. 刊行予定日

- 1) <標準版> 2025年2月26日 (水)
- 2) <特別版> 2025年2月28日 (金)

4. 報告書フォーマット

PDF (2024年版263頁)

5. 調査報告書費用

- 1) <標準版> ¥500,000 (消費税別)
- 2) <特別版> ¥600,000 (消費税別)

※<標準版>については英語版 (\$5,200) の刊行も予定しています。

※Excel データの提供は別途費用 (税別 ¥50,000) をいただきます。

※刊行前の注文は10%オフ。申込時に半金、報告書完成時に残金を請求させていただきます。

6. 調査担当

山本 幸男 (yamamoto@datasupply.jp)

吉田 晃介 (yoshida@datasupply.jp)

針生 正史 (hariu@datasupply.jp)

VI. 調査項目

A. 分析編

1. 感光体の全世界生産量（2022年～2028年予測）
日本／北米／欧州／中国／その他
2. 感光体の種類別生産量（2022年～2028年予測）
OPC／Se／a-Si
3. 感光体の用途別生産量（2022年～2028年予測）
MFP／PP、プリンタ／FAX
4. 出荷用途別（ハード本体出荷用／サプライ用）生産量（2022年～2028年予測）
OEM（ハード本体出荷用／サプライ用）／サードパーティ出荷量
5. 全世界の純正感光体とサードパーティ感光体の生産量比較（2023年～2025年見込）
メーカー別OEM比率とサードパーティ比率
6. 世界の生産量ベスト10（2021年～2025年見込）の変遷
全体／OEM向けシェア／サードパーティ向けシェア
7. 全世界の地域別・メーカー別・種類別生産量（2022年～2028年予測）
日本／北米／欧州／中国／その他
8. 全世界の地域別・メーカー別・用途別生産量（2022年～2028年予測）
日本／北米／欧州／中国／その他
9. OEMとサードパーティの生産量（2024年）
全世界／地域別
10. 外注／外販の拡大戦略
11. 日本と中国の感光体生産量の推移比較
12. 感光体用素管の生産動向
日本メーカー／海外メーカー
13. 日本メーカー各社の塗布材料使用状況
CTL／CGL／UCL／OCL
14. 感光体の国内外生産拠点
日本メーカー／海外メーカー

B. 感光体市場編

1. 日本メーカーの動向
 - 1-1. 集計分析
 - 1) 種類別用途別（MFP／PP、プリンタ／FAX）生産量
（2022年～2028年予測） 国内生産分／海外生産分
 - 2) 種類別地域別メーカー別用途別生産量
（2022年～2028年予測） 国内生産分／海外生産分
 - 3) 直径別用途別（MFP／PP、プリンタ／FAX）種類別生産量（2024年）
 - 4) 直径別メーカー別生産量、生産金額（2024年）
20φ～260φ
 - 5) 長さ別（A4、A3、A2、A1、A0）メーカー別生産量、生産金額（2024年）
 - 6) 直径別長さ別種類別生産量、生産金額（2024年）
 - 7) ロングライフ感光体（A3）のメーカー別開発動向
 - 8) 正帯電／負帯電別生産量（2024年）
 - 9) 負帯電 a-Si の生産計画
 - 10) 日本メーカーの用途別種類別地域別生産状況（2023年～2025年）
 - 11) ハードメーカーと感光体メーカーの供給関係と供給量

1-2. 個別メーカー動向（2022年～2028年予測）

■ 共通調査項目 ■

- ・全体生産量・生産金額（2022年～2028年予測）
- ・地域別拠点別種類別用途別生産量（国内・海外）の現状と今後（2022年～2028年予測）
- ・生産拠点の動向（設備投資、製造ラインの増減と今後の拠点）
- ・直径別用途別生産量 ・直径別長さ別生産量と生産金額、単価（2024年実績）
- ・直径別長さ別製品ラインアップ状況 ・正帯電／負帯電別生産量
- ・ロングライフ感光体の開発と今後 ・外注／外販の拡大戦略
- ・小径化／大径化の状況
- ・塗布層と塗布材料（UCL、CGL、CTL、OCL）の現状と開発及び購入状況
- ・塗布方法 ・純正メーカーのサードパーティ製感光体への対応策
- ・純正品（OEM）とサードパーティ製品の生産比率
- ・供給先別納入量（2023年～2025年見込）
- ・ワールドワイドの生産拠点一覧

- 1) キヤノン 2) リコー 3) 富士フイルムビジネスイノベーション 4) コニカミノルタ
 5) 京セラグループ（①京セラ、②京セラドキュメントソリューションズ） 6) シャープ
 7) 三菱ケミカル 8) 富士電機

2. 海外メーカーの動向

2-1. 集計分析

- 1) 種類別用途別生産量（2022年～2028年予測）
- 2) 種類別地域別メーカー別用途別生産量（2022年～2028年予測）
北米／欧州／中国／その他

2-2. 個別メーカー動向（2022年～2028年予測）

■ 共通調査項目 ■

- ・地域別拠点別種類別用途別生産量の現状と今後（2022年～2028年予測）
- ・純正品（OEM）とサードパーティ製品の生産量（2023年～2025年見込）
- ・最新の出荷動向

生産地域	国名	企業名
北米	アメリカ(2)	Eastman Kodak、Lexmark International
欧州	オランダ(1)	Xerox Manufacturing (Nederland) B.V.
アジア	中国(14)	APS Photoconductor (Shanghai)、Green Rich (Guangzhou) Optoelectronic Technology、Guangzhou A&G Optoelectronics Technology、Guangzhou Aotusi Office Equipment、HG Technologies、Huaian Gantech Opto Electronics、Hubei HanMei Photoelectricity Science and Technology、Hunan Zhijian Copier Remanufacturing (COPITEK)、Suzhou Goldengreen Technologies、Xinyinkaier New Material、Zeloq (Shenzhen) Technology、Zhejiang Ouya Precise Mechanical & Electrical、Zhuhai AlphaChem Technology、Zhuhai TianYing Technology
	韓国(2)	JID Tech、KR OPC
	インド(1)	OPC Technology Japan Pvt.
	バングラデシュ(1)	Neo Bangla

C. 感光体素管市場編

1. 全体集計

- 1) 感光体業界のエントリー動向（素管／伸管（引抜）／加工（切削）／塗布）
- 2) 素管メーカーと加工メーカーの取引関係
- 3) 素管メーカーと感光体メーカーの取引関係図
- 4) 拡大する中国製品の採用状況と今後
- 5) メーカー別生産量（2022年～2028年予測）
- 6) 直径別長さ別生産量（2024年） 20φ～260φ、A4～A0
- 7) 日本の感光体メーカーへの全世界のメーカー別拠点別供給量

2. 個別メーカー動向（2022年～2028年予測）

■ 共通調査項目 ■

- ・地域別（拠点別）生産量（国内・海外）
- ・種類別／直径別（20φ～260φ）／用途別／長さ別（A4～A0）生産量
- ・無切削／切削管の生産量
- ・感光体メーカーの生産拠点別納入量一覧（全世界）
- ・カラー用感光体への対応策（振れ、真円度、表面粗度、他）
- ・加工／伸管メーカーとの関係 ・生産技術動向（切削管、無切削管）
- ・価格動向、採算性 ・生産拠点の現状と今後

- 1) レゾナック（旧 昭和電工） 2) UACJ 押出加工 3) 日軽金アクト 4) 富士アルミ管工業
- 5) その他（和勝、新馬、瀚鼎精密、超精達、金鋁、科諾、逸飛、ビナ・ワシン・ベトナム）
- 6) 引き抜き、切削メーカー

日本伸管、花村産業、創和、内藤製作所、中谷商工、Well Sure、協和精密機械、他

D. 塗布材料市場編

1. 全体概要

2. CTL（電荷輸送層）市場（2022年～2026年）

- 1) バインダー樹脂のメーカー別生産量（日本／韓国）
- 2) 材料別特徴／材料別生産量
- 3) 価格動向と採算性
- 4) バインダー樹脂の主要供給関係（日本／韓国／中国／台湾）
- 5) 個別メーカー動向
三菱ガス化学／帝人／出光興産／三菱ケミカル／ユニチカ／その他

3. CTM（電荷輸送材）市場（2024年）

- 1) 全世界の市場／内製メーカー及びCTMメーカーの出荷量（日本／韓国）
- 2) CTMの種類／材料別生産量
- 3) 価格動向と採算性
- 4) 内製メーカーと専門メーカーの動向
内製メーカー／高砂香料工業／日触テクノファインケミカル／保土谷化学工業／韓国・台湾メーカー
- 5) 主要供給関係

4. CGL／CGM（電荷発生層）市場（2024年）

- 1) バインダー樹脂の材料及び価格と採算性
- 2) CGM材料、メーカー（内製メーカー、専門メーカー）

5. UCL（下引き層）／OCL（表面保護層）の材料（2024年）

- 1) 採用メーカー
- 2) 材料
- 3) 課題（採算性）

E. 感光体別直径別機種一覧（2021年～2025年直近）

1. 複写機・複合機
2. レーザー／LEDプリンタ
3. プロダクションプリンタ

特別版 長期予測レポート

1. 全体集計（2001～2024年実績、2025～2040年予測）
 - 1) 全世界における感光体生産量の長期推移
 - 2) 種類別（OPC／Se／a－Si）感光体生産量の長期推移
 - 3) 用途別（MF P&PP／プリンタ&FAX）感光体生産量の長期推移
 - 4) OEM／サードパーティ別感光体生産量の長期推移
 - 5) 日本メーカー／海外メーカー別感光体生産量の長期推移
2. メーカー個票（2001年～2028年）
 - 1) 全世界における感光体生産量の長期推移
 - 2) 種類別（OPC／Se／a－Si）感光体生産量の長期推移
 - 3) 用途別（MF P&PP／プリンタ&FAX）感光体生産量の長期推移
 - 4) OEM／サードパーティ別感光体生産量の長期推移
 - 5) 生産地域別（日本／海外）感光体生産量の長期推移

◆ 感光体マーケット総覧の内容イメージ図 (2024年版より) ◆

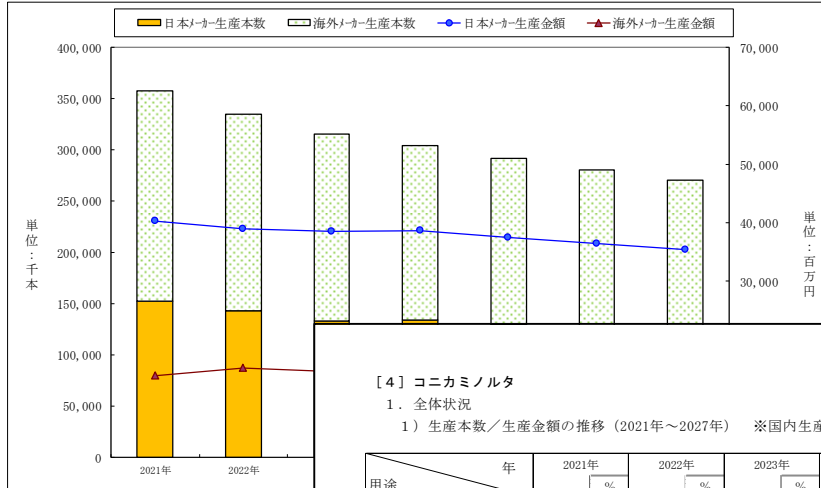
<標準版サンプル>

※実際のレポートには数字が入っています。

A. 分析編

A-1. 全世界の感光体生産動向

1. 日本/海外メーカー別全体生産本数・生産金額推移 (2021年~2027年)



<生産本数>

	2021年		2022年	
	対前年比 (%)	対前年比 (%)	対前年比 (%)	対前年比 (%)
日本メーカー生産本数				
海外メーカー生産本数				
合計				

<生産金額>

	2021年		2022年	
	対前年比 (%)	対前年比 (%)	対前年比 (%)	対前年比 (%)
日本メーカー生産金額				
海外メーカー生産金額				
合計				

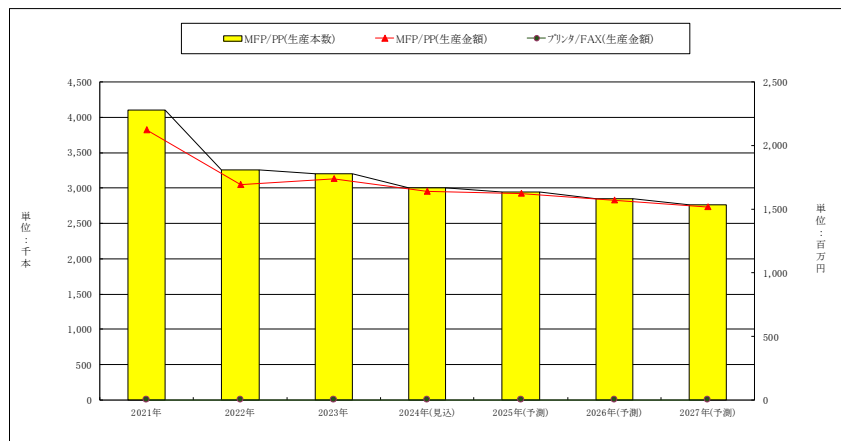
2023年における全世界の感光体生産本数は対前年などのボトルネックがほぼ解消されたものの、中国の景気によるオフィスのプリントボリューム(PV)減少という2年連続の大幅減を記録することとなった。一方、金額は落ち込みはなっていない。
 今後の将来見通しも厳しい。オフィスにおけるPVの上回っており、世界的にその減少スピードはさらには、コストダウン目的で外部から感光体を購入する、もに突入したと言える。いずれにしろ、日本メーカー、海

[4] コニカミノルタ

1. 全体状況

1) 生産本数/生産金額の推移 (2021年~2027年) ※国内生産のみ

用途	年	2021年	2022年	2023年	2024年(見込)	2025年(予測)	2026年(予測)	2027年(予測)
		%	%	%	%	%	%	%
生産本数 (千本)	MFP/PP							
	対前年比 (%)							
	プリンタ/FAX							
	対前年比 (%)							
生産金額 (百万円)	MFP/PP							
	対前年比 (%)							
	プリンタ/FAX							
	対前年比 (%)							



① 生産本数/生産金額

コニカミノルタの2023年における感光体生産本数は対前年比98.5%の320万本、生産金額は同103%の17億4千万円(外注生産分は含まず)。オフィスにおけるプリントボリュームの低迷が続いていることや感光体のロングライフ化などにより交換需要が減少したことで、前年の大幅減からさらに減少する結果となった。

2024年以降も感光体の本数減少は続く見通しである。内訳としては、機器本体向けは一定の需要を維持するが、サービスパーツ向けが減少していく可能性が高い。特にオフィスのなかでは高速領域よりも低速領域のプリントボリュームの減少スピードが加速しており、これが感光体の本数減少に直結している状況である。

② 用途別生産比率

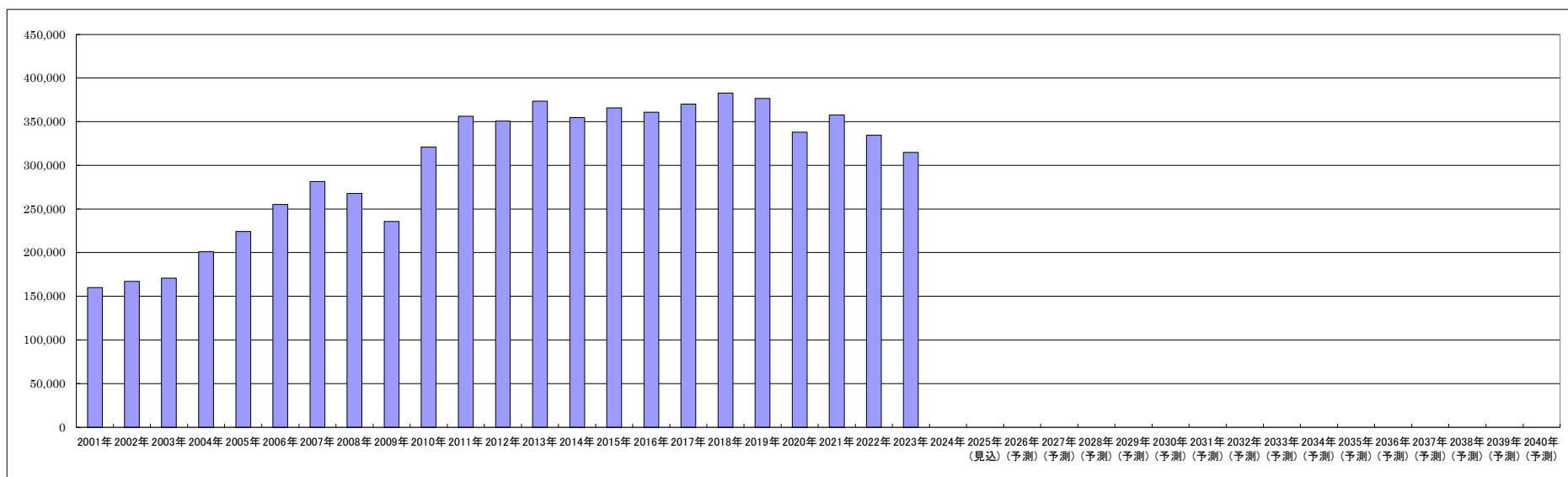
同社ではMFP/PP用のA3感光体のみを内製している。プリンタ用を中心とするA4感光体は全て外注している。全体本数は減少しているが、A4製品を内製に取り込むことはコスト的に難しく、今後もこの生産戦略は変わらない。

<特別版サンプル>

※実際のレポートには数字が入っています。

年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
生産量(千本)
対前年比	

年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年 (見込)	2026年 (予測)	2027年 (予測)	2028年 (予測)	2029年 (予測)	2030年 (予測)	2031年 (予測)	2032年 (予測)	2033年 (予測)	2034年 (予測)	2035年 (予測)	2036年 (予測)	2037年 (予測)	2038年 (予測)	2039年 (予測)	2040年 (予測)
生産量(千本)
対前年比



* 感光体マーケット総覧 既刊案内 *

1. 1987年 7月 「OPC 感光体市場の現状と将来予測」
2. 1990年 6月 「拡大続ける OPC 感光体市場のビジネスチャンス分析」
3. 1991年 5月 「全感光体の応用分野別市場の将来性分析」
4. 1992年 12月 「全感光体の需要構造とメーカー戦略」
5. 1993年 11月 「小径化が加速する感光体ビジネスの将来展望」
6. 1995年 2月 「OPC の高機能化で変容する全感光体の中長期展望」
7. 1996年 4月 「感光体マーケット総覧」
8. 1997年 4月 「カラー新市場が喚起する感光体ビジネス展望」
9. 1998年 6月 「転換期を迎えた感光体市場の総合分析」
10. 1999年 6月 「本格化したカラー電子写真を支える感光体の技術と市場展望」
11. 2000年 8月 「淘汰が進む感光体ビジネスの展望」
12. 2001年 12月 「カラー電子写真の進展と感光体市場の最新動向」
13. 2002年 12月 「高精細画像を支える感光体の将来考察」
14. 2003年 12月 「拡大するカラー電子写真を担う感光体の将来展望」
15. 2005年 2月 「長寿命化と高解像度対応が進展する全感光体の最新市場と将来性分析」
16. 2006年 2月 「サードパーティメーカーが急増する全感光体市場の総合分析」
17. 2007年 2月 「海外生産が加速する全感光体市場の総合分析」
18. 2008年 2月 「カラー化で急増する感光体市場の現状と将来展望」
19. 2009年 2月 「構造改革が迫られる感光体市場の総合分析」
20. 2010年 2月 「サードパーティ増加で変わる感光体市場の展望」
21. 2011年 2月 「V字回復で攻めに転じた感光体ビジネスの分析」
22. 2012年 2月 「多国籍化する感光体ビジネスの展望」
23. 2013年 2月 「コスト削減に腐心する感光体ビジネスの将来性」
24. 2014年 2月 「長期戦略が求められる感光体市場の総合分析」
25. 2015年 2月 「収益体質確立を目指す感光体市場の総合分析」
26. 2016年 2月 「事務機業界の再編で見直し急務の感光体市場」
27. 2017年 2月 「電子写真の心臓部品・感光体の市場変貌」
28. 2018年 2月 「固定部品化が進む感光体市場の展望」
29. 2019年 2月 「中国が日本を追い越す感光体業界の実情」
30. 2020年 2月 「新たな中国市場戦略が求められる感光体業界のゆくえ」
31. 2021年 2月 「戦略転換が求められる感光体業界の試練」
32. 2022年 2月 「基幹部品としての重要度を堅持する感光体市場の展望」
33. 2023年 2月 「変化の時代に真価が問われる感光体市場の総合分析」
34. 2024年 2月 「業界変革・再編時代における感光体市場の総合分析」

※バックナンバー及び、レポートの部分提供も行っております。詳しくはお問い合わせ下さい。

株式会社データ・サプライ刊行物案内／申込書

住所：〒110-0005 東京都台東区上野6-6-1 舶来堂ビル5F
 TEL：03(3831)9201、FAX：03(3831)9204
 E-mail：yamamoto@datasupply.jp、yoshida@datasupply.jp、hariu@datasupply.jp
 ホームページ：http://www.datasupply.jp/

- 以下の枠内にご記入いただき、下表のご希望の調査資料に希望部数、金額をご記入ください。最短で翌日（部数、地域による）に到着するように発送いたします。
- 申込はメール、FAX、郵送のいずれでも可能です。申込と同時に現物と請求書を発送させていただきます。尚、発刊日前の申込につきましては、申込時に半金の請求をし、発刊日に残金（現物とも）の請求をさせていただきます。

申し込み日 2025年 月 日

御社名

御住所 〒

御電話番号

御担当部署

御担当者

※セット価格は日本語版+英語版

	①日本語版		②英語版		セット ①+②	部数	金額
	価格 (税別)	刊行日	価格 (税別)	刊行日	価格 (税別)		
《定期刊行物》							
* 「月刊電子写真総合情報」 一電子写真に関する総合的なレポート (1986年～) 年間1,200～1,300頁	年会費：¥700,000 月会費：¥60,000	毎月 20日	\$7,000 \$600	毎月末	¥900,000		
i4inkjet [Directions] (年6回発行、年300頁～) ※インクジェット関連の特許技術レポート	—	—	¥550,000 ～	2021年 7/27～	—		
《2025年刊行予定物》							
* 2025年版[感光体マーケット総覧] 『戦略転換期を迎えた感光体市場の総合分析』<標準版>	¥500,000	2/26 予定	\$5,200	予約発売	¥800,000	日 英	
<特別版> (標準版 + 長期予測レポート付き)	¥600,000	2/28 予定	\$6,000	予約発売	¥900,000	日 英	
* 2025年版[ローラー系部品マーケット総覧]	¥400,000	4/25 予定	\$5,000	6/上旬 予定	¥800,000	日 英	
* 2025年版[トナーマーケット総覧]	¥600,000	6/27 予定	\$6,000	8/中頃 予定	¥900,000	日 英	
* 2025年版[インクジェット印刷マーケット総覧]	¥500,000	10/30 予定	\$6,000	12/上旬 予定	¥900,000	日 英	
* 2025年版[MFPマーケット総覧] <標準版>	¥600,000	12/24 予定	—	—	—	—	—
* 2025年版[MFPマーケット総覧] <標準版>+<特別版>	¥700,000						
《2024年刊行物》							
* 2024年版[感光体マーケット総覧] (263頁) 『業界変革・再編時代における感光体市場の総合分析』	¥500,000	2/26	\$5,200	4/15	¥800,000	日 英	
* 2024年版[ローラー系部品マーケット総覧] (372頁) 『市場成熟に向き合う部品業界の最新動向』	¥400,000	4/25	\$5,000	6/7	¥800,000	日 英	
* 2024年版[トナーマーケット総覧] (582頁) 『業界再編に向けて動き出すトナー業界の総合分析』	¥600,000	6/27	\$6,000	8/16	¥900,000	日 英	
* 2024年版[インクジェット印刷マーケット総覧] (419頁) 『印刷からものづくり分野へと拡大するインクジェット技術の最新市場動向』	¥500,000	10/30	\$6,000	12/9	¥900,000	日 英	
* 2024年版[MFPマーケット総覧] 『再編に向けて動き始めた複合機・プリンタ業界の将来展望』 <標準版> (全世界の最新出荷台数分析) (654頁)	¥600,000	12/24	—	—	—	—	—
<特別版> (全世界の最新出荷台数分析) (業界再編、全世界のMIF分析) (765頁)	¥700,000						
《その他の刊行物》							
* 2020年版[MIFマーケット総覧] (501頁) 『オフィス向け電子写真製品の設置台数とトナー量に関する長期予測』	¥400,000	2020年 9/28	\$4,000	2020年 12/23	—	日 英	